

(様式1)

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 020	提案機関名 普及指導部作物加工課
要望問題名 大豆バサグランによる除草体系の確立について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 本県の大豆は、在来系統「津久井在来」が中心に作付けされている。その加工品は県内の農産物直売所、豆腐屋などで販売され、地産地消や6次産業化、農商工連携がすすんでいる。さらに麦との輪作体系により、県内の耕作放棄地の解消対策として栽培されている。 津久井在来の作付けを比較的大きな規模で行なっている生産者は、播種機やコンバインなどの機械の導入により、作業の効率化を図っている。機械収穫体系では、ほ場内に雑草が残存していると汁液による子実の汚損の発生による落等が問題となるため、徹底した除草が必須である。このため、生育期間は管理機による中耕・培土と残草の手取り除草が必要であるが、機械除草は天候や作業競合により適期作業できず、手取り除草は労力がかかることから対応が難しく、シロザ、ヒコ類などの広葉雑草の残草が問題となっている。 そこで、大豆の生育期における除草の代替として、選択型茎葉処理剤である大豆用ベンタゾン液剤(大豆バサグラン)の利用が挙げられるが、品種によって薬害が発生することから、公的試験研究機関による薬害評価が行われていない地域では販売することができない。「津久井在来」に対する評価が行われていないことから、本県での使用には農業技術センター等の機関で評価を実施していただきたい。 併せて、大豆バサグランを利用したコンバイン収穫の作業体系を確立していただきたい。 ①津久井在来における大豆バサグランの薬害評価 ②生育期茎葉処理除草剤を用いた汎用コンバインによる津久井在来大豆の収穫作業体系 対象地域 JA さがみ、JA 湘南、JA いせはら、JA はだの、JA あつぎ、JA 津久井郡等 大豆栽培面積 2232a、39,992kg (平成26年度 津久井在来大豆振興連絡会調べ)	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部 野菜作物研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 消費者ニーズに応える高品質・安定生産技術の開発 作物の高品質・安定生産技術の開発 畑作物の高品質・安定生産技術の開発		
対応の内容等	大豆用ベンタゾン液剤については、平成28年度から試験を実施しており、「津久井在来」への薬害の有無、強弱等について試験を実施しています(実施中)。 大豆バサグラン等の生育期茎葉処理剤を用いたコンバイン収穫作業体系については、現状の茎葉処理剤は草種によっては効果が不十分なため、中耕・培土を完全に省略した場合には雑草害の発生が懸念され、また倒伏の発生による収穫損失の増大も懸念されます。慣行では2回必要な中耕・培土を1回に省略し、茎葉処理剤により除草効果を補完すると共に、培土の高さを低くすることで収穫機械の作業精度を高める等の対策が考えられますが、当所には大豆用コンバイン等の収穫機械がありませんので、倒伏程度の調査や現地試験の実施について検討します(継続検討)。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			